

## ○四日市港管理組合管理者（知事）コメント

本日、令和3年度予算において「四日市港霞ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業」が、新規採択されましたことについて安堵するとともに、改めて、県選出をはじめとする国会議員や国土交通省など関係者の方々、また一丸となって要望活動等に取り組んでいただきました「四日市港霞ヶ浦地区北埠頭の整備を進める会」など、地域の皆さんに心より感謝申し上げます。

四日市港として初のコンテナ船用の耐震強化岸壁などターミナルの整備により、コンテナ貨物量の増加や船舶の大型化への対応が図られ、地域産業の競争力強化やサプライチェーンの強靱化に資する港湾機能の強化に向けて大きく前進します。

近年、四日市港周辺では、臨港道路霞4号幹線「四日市・いなばポートライン」や新名神高速道路、東海環状自動車道等の道路網が充実したことで、物流の効率化や新たな企業立地が進むとともに、今後も東海環状自動車道や北勢バイパス等の整備により、道路と港湾の連携が強化され、さらなる背後圏産業の発展が期待されます。

また、切迫する南海トラフ地震等に備えるため、この度の新規採択は、防災・減災対策を推進する三重県にとって、大変時宜を得たものであり、大規模災害時の港湾物流機能の確保や企業の事業継続、社会・経済活動を維持する上でも非常に意義深いものであります。

霞ヶ浦地区国際物流ターミナルの早期実現は、荷主企業や船会社、港湾運送事業者など四日市港を利用するすべての方々の悲願であります。

管理者としましても、引き続き国と連携しながら、岸壁背後の埠頭用地の整備に全力で取り組んでまいります。

令和3年3月30日 四日市港管理組合管理者 三重県知事 鈴木 英敬